

# 農繁期 レポート 令和3年 6月号

## バードライフファーム

オーナー (一般)バードライフ・インターナショナル東京  
水田面積 25.0アール  
保証量 玄米1125kg  
形態品種 特別栽培コシヒカリ



## 生産者 米風土鳥取の皆さん

早く梅雨に入ったものの、雨はあまり多くなく、じめじめとつづく天気です、最近になって気温も上がってきてやっと稲が元気になってきました。まもなく稲の成長を止める最高分ケツ時期に入ります。収量に響く大事な時期です無事に乗りこえて、次に迎える花咲きに期待したいと思っています。

### 6月の作業内容と稲の成長

#### 1. 除草剤まき (田んぼの中)

田植えをしてから1週間後は1回目の除草剤を散布します。田んぼの中に雑草が増えると、養分が取られ、風通しが悪くなり、また害虫も発生しやすくなります。翌日雨が降ってしまうとせっかくの除草剤も流れてしまうので天候も重要です。



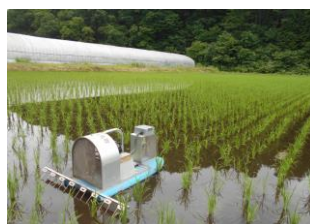
#### 2. 草刈り (殆どが人力による)

極端ではなく、田植え～収穫までに使う時間の大半が畔(アゼ)の「草刈り」です。畔に生えた雑草を強力な薬を使って根まで枯らす事は簡単ですが、そうすると畔が弱くなり、水田が崩れる危険性と水田にしみ込み稲にも影響を与えます。



#### 3. 草刈り (ラジコン草刈機)

除草剤対応が殆どですが、それでも生えてくる箇所があります。その場合、農家さんが手作業で雑草を取ったり、ラジコン草刈り機を使って対応しています。全て機械化できればいいのですが、農機具は高価な為まだそうもいきません。



#### 稲の分けつと水管理

6月は一番稲が育つ時で、茎が増える事を分けつと言います。平均水温が23～25℃で昼夜の寒暖差が大きいと促進されます。毎日農家さんが田んぼの水を見に行くのは、水の深さを調整することで稲の温度を上げ下げしているからです。

